

オーストリア
の多文化社会

160781096 内藤悠一郎

はじめに

- 1) 移民数、10年ぶりの低水準
 - a) 前年度比11.5%減
 - b) 永住審査の厳格化が理由
 - ア) オーストラリア人雇用機会確保
 - c) 技術移民の増加
- 2) 人口増加率が100年ぶりの低水準
 - a) コロナウイルス対策で入国規制



第1章 大陸の発見からオース トラリア連邦成立まで

第1節 幻の大陸オーストラリアの発見

1)地理

- a)面積769万2024平方km（日本の約20倍）
- b)人口2499万人（日本の約5分の1）

2)紀元

- a)イギリスの探検家ジェームズ・クックが発見
 - ア) イギリスは支配できる土地を模索

3)先住民の存在

- a)30万人ものアボリジニが存在

第2節 イギリスによる植民地支配

- 1) 1770年にイギリスがNSWで領有宣言を発表
 - a) 史上最大の刑務所の建設
 - ア) 死刑囚750名を含む1200名が上陸
 - イ) 産業革命による犯罪者の増加の為
 - b) 先住民アボリジニを迫害
- 2) 1829年全オーストラリアが正式に植民地化
- 3) 1830年には人口が7万人近くに増加
 - a) 貧困を逃れる為入国した一般入植者の増加

第3節 経済成長とオーストラリア連邦の成立

1)人口増加により経済発展

a)牧羊業の発展により流刑植民地から
一般植民地へ移行

b)1850年代にゴールドラッシュの発生
ア)軽工業や建設業が発展

2)経済成長により、1901年に
オーストラリア連邦が成立

まとめ

イギリスの流刑植民地から始まったオーストラリア
が連邦を成立



第2章 第二次世界大戦までの オーストラリアの発展

第1節 白豪主義と中国人

- 1) ゴールドラッシュにより中国人が大量に流入
 - a) 白人鉱掘との間に紛争→有色人種差別の発生
 - b) 政府は中国人の移住制限を実施
 - ア) 1人あたり20ドルの課税
 - c) 1877年には中国人移民制限法が制定
 - d) 1896年には有色人種制限及び取締法が制定
→白豪主義のはじまり

第2節 第一次世界大戦と世界恐慌による影響

- 1) 1880年代オーストラリアは好景気の時
 - a) イギリスの投資が同国帝国内へと移行
 - ア) 他国との経済競争に直面した結果
- 2) 1891年から経済活動の縮小
 - a) ゴールドラッシュによるブームの終了
 - ア) 国内総生産30%下落
 - b) 干ばつにより、深刻な水不足の発生

3) 第一次世界大戦により、1911年に海軍が成立

a) ニューギニアを占領する為、小規模部隊を編成

b) 1914年豪兵の第一陣がエジプトに出向

ア) スエズ運河にてトルコ軍侵攻を防衛

4) 1930年代の世界恐慌により経済的にダメージ

a) 失業者の更なる増加

第3節 第二次世界大戦とその影響

- 1) 第二次世界大戦により再び戦争へ突入
 - a) 再びスエズ運河の防衛
 - ア) 今回はイタリア軍と敵対
 - b) 1941年ハワイでパール・ハーバー空襲
 - ア) アメリカとオーストラリアは
日本に対して宣戦布告
 - c) ダーウィン空襲が勃発
 - ア) オーストラリアにとって最大の空襲被害

まとめ

1. 中国人移民の増加により白豪主義が開始
2. 戦争と世界恐慌の影響により
オーストラリアの経済は衰退



第3章 20世紀後半のオーストラリア

第1節 白豪主義の終焉

- I)戦後、アジア・太平洋地域と関係を強化
 - a)1950年にコロンボ計画を実施
 - ア)アジアからの留学生を受け入れ教育
 - b)1951年ANZUS同盟を締結
 - ア)豪・NZ・米安全保障条約により、
アメリカとの関係を強化
 - c)57年に日豪通商協定が成立
 - ア)日本との経済関係が強化

c) 1970年代にインドシナ難民の受け入れを開始

d) 80年代に東南アジアからの移民が増加

2) 大量の移民政策により1945年から60年代まで
約270万人が移住

a) 戦後の経済復興が目的

ア) 大量移民により安価な労働力の確保

b) 白豪主義の維持より経済成長を優先

→ 白豪主義の終焉

第2節 多文化主義の誕生

1)多文化主義とは少数派の文化・言語・宗教などを承認・尊重する思想

a)移民政策を始めた初期、政府は非英語系移民の文化や言語を否定

b)同化主義を開始

ア)全ての移民にイギリス的なオーストラリア文化を強要

イ)家庭、学校、福祉サービスでトラブル増加

→政府が移民問題の存在を認識

2)同化主義を廃止し、総合政策を採用

a)移民の文化との融合による単一文化の生成

ア)移民間に、自分たちの文化が
維持できないとの不満

3)1980年代にはいり、多文化主義を本格的に導入

a)イギリスからの独立意識が増大

ア)アジア地域との共存が必要

→多文化主義は現在まで継続

第3節 アボリジナルの生活

1) オーストラリアは19世紀末から1960年代まで
白豪主義国家として成長

→先住民族アボリジニからすると、迫害の歴史

a) 白人入植時、約75万人であったアボリジニは20
世紀初頭には9万3000人に減少

2) 多文化主義の影響により、アボリジニへの福祉政
策の開始

a) 2001年には人口が46万人まで回復

まとめ

- 1.戦後の経済復興の為に、白豪主義を終了
- 2.大量移民政策により、多文化主義が開始



第4章 多文化主義が抱える問 題

第1節 オーストラリア人とは誰か

I)現在のオーストラリア人は複雑な状態

a)以前のオーストラリア人はイギリス移民の子孫

b)移民の増加による影響

ア)海外から来た永住者の6分の1が

オーストラリア国籍を未取得

→移民の増加により移民内コミュニティ

の拡大が理由

c) 国籍民族文化

ア) オーストラリア国籍の間で英会話が不可能

→ どの国の人が不明

イ) オーストラリア国籍を放棄

→ オーストラリア人が不明

ウ) オーストラリア文化の理解者

→ 文化は無数に存在、全ての把握は不可能



オーストラリア人の定義は不可

第2節 多様な次元での多文化

1)混血児の増加

a)人口の約6割が異民族間結婚

→今日のオーストラリア人の代表は混血児

2)レインボーマークの店の増加

ア)以前まで同性愛は犯罪

イ)毎年数万人規模のパレード開催

→マイノリティは民族間、性別など多様な次元で発生。それを許容するのが本来の多文化主義

第3節 オーストラリアの日本人

- 1) オーストラリアに約8万5000人もの日本人が居住
 - ア) アメリカ、中国に次いで第3位
 - イ) 国際結婚による増加が特徴
- 2) ハイブリット性の教育
 - ア) 日本語と共に日本の文化を、豪生まれの日本人に継承
 - 日本文化を持つオーストラリア人である
日系第二世代の出現

まとめ

- 1.現在のオーストラリア人は複雑な為、定義付けが不可能
- 2.多文化は民族だけでなく、様々な次元で発生
- 3.日系第二生のような自国の文化と豪文化を持つオーストラリア人が登場



終章

現在のオーストラリア

1) 多文化主義を肯定する意見

a) 様々な移民たちのおかげで経済的成功

ア) 27年間景気が拡大

→ 移民の功績を称賛するべきという意見

b) ワーキングホリデーという形の居住者

ア) 海外から来る若者達は肉体労働に意欲的

イ) オーストラリア人は肉体労働を嫌悪

→ 農産業などの人手不足を補い、発展を促進

2)多文化主義を否定する意見

a)対外援助を止め、国内の雇用を増やすべきとの意見

b)オーストラリアのアイデンティティを失う懸念
→ワン・ネーション党の白豪主義的意見

3)前者の意見に賛成

a)人口増加により、経済が成長するの為
→移民の増加が人口増加に直結

b)厳格化する居住条件が経済の妨げになる為
→海外の優秀な人材の不足